

所属校種	授業実践でよかった（効果があった）事例を記入してください。
特別支援学校	弱視児童の国語の授業で、プリント（墨字）で課題を設定し、回答をする場面でタブレット端末とワイヤレスキーボードを使用して文章を入力した。学校で活用方法を学ぶことで、家庭学習の際に課題に取り組むことが可能となった。その後、保護者の支援のもと、入力を終えたファイルをクラスルームにアップロードすることで、家庭学習と授業が連携され、児童の学びの質の向上につながった。
特別支援学校	小学部5年生の社会科の授業で、ロイロノートのクラゲチャートを使って、新しく開発されている自動車のメリット・デメリットを色分けしてカードにまとめていくことで、その特徴をとらえやすくなった。また、発表するときも内容が視覚的にわかりやすくなった。友達の考えを聞いて、付け足しや訂正が容易に行えるので、「友達と考えを共有し、自動車の特徴について多角的な視点でまとめる」ことにつながった。
特別支援学校	オンライン会議アプリを使って、他校と交流（自己紹介、玉入れ合戦）をしたり、プロのマジシャンとマジックを発表し合ったりし、コロナ禍でも意欲的で対話的な学びができた。
特別支援学校	1人1台端末を用いることで、音楽の授業では、ロイロノートを用いて各自のiPadにパート楽譜と動画を配付し、合奏の手立てとなった。理科の授業で、実験の動画を共有したり、ワークシートを共同編集したりして、それぞれの考えや気付きを話し合う手立てとなった。国語では、スプレッドシートを共同編集して俳句や詩をグループでつくることで、相手の考えや表現に意識が向くようになった。ガレージバンド(アプリ)を使い、自分の居住地の応援CMソングを作って発表し合うことができた。など
特別支援学校	（自立活動）発語が難しい生徒が、モデルとなる音声と動画を録画したタブレットを視聴し一緒に発声の練習を行い、その様子を別のタブレットで撮影してフィードバックしながら学習することができた。
特別支援学校	数学の授業でロイロノートやACアンサーを使い、生徒が書いた回答や撮った写真を画面に映して、その場で共有、評価した。他者の回答を互いに見ることで、学習した内容をより幅広く理解することにつながっている。
特別支援学校	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部の算数の授業で、見つけた形を写真に撮り、マークアップ機能を使って発表した。話し手は発語が困難でも画像を示しながら発表をすることができ、また、聞き手は画面に注目し、どんな形を見つけたかを共有することにつながり、効果的だった。 ・高等部の数学（面積の学習）で、写真で方眼紙を撮影し、マークアップでペイントした。生徒が手元で行う紙媒体での学習と、それを画面に投影して他者と共有したり補足したりすることで理解が深まったかと思う。 ・作業学習で教師が作成したキーノートを使って、生徒が自分で作業の内容を選択し、その準備を一人で行うことが出来るようになった。
特別支援学校	小学部、6年生の国語の授業で読み上げアプリを使うことで自分の書いた文の間違えやすい箇所に気付くことができ、その個所を意識して文をつくることにつながった。
特別支援学校	中学部1年生の国語の授業で、文字の読み書きが難しい生徒に、入力した文字を読み上げるアプリを用いて学習を進めていたところ、自ら拾い読みで本を読む姿が見られるようになった。
特別支援学校	高等部では、コミュニケーションを広げるツールとして、外部との交流や発表場面でのスライドの活用を積極的に行った。他者へ気持ちや考えを伝える時に、zoomやGoogleスライド、jamboardなどを教科横断的に活用することで、「伝えたい内容・気持ち」を表現するための情報収集・編集・発表の仕方、伝え方など教員間でもその有用性を共有することができた。1年間の研修を通じて、ICT機器の知識やその有用性や可能性について全職員に共有することができたため、「試しに使ってみる」ではなく、「ここに使える、この場面には有効ではないか」と教員の意識の向上も見られた。
特別支援学校	オンラインで班れた病室や病院外の人たちとふれあい、お互いの様子を伝え合い刺激を得ることができた。